

問四

傍線部2 「形式による束縛のないところに意志の自由はない」とあるが、フランス語の学習に即して考えた場合、これはどういうことか。本文に即して八十字以内（句読点や記号も字数を含む）で説明せよ。


問五

傍線部3 「いわば三重に疎外されたところでもいったところのある存在であろう」とあるが、「外国文学研究者」にとって、「三重に疎外され」ているとはどういうことか。本文に即して八十字以内（句読点や記号も字数を含む）でわかりやすく説明せよ。


## 第二講

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

高倉院の御時、御殿の上に、鶺鴒ぬえの鳴きけるを、あしきことなりとて、いかがすべきといふことにてありけるを、ある人、頼政に射させらるべきよし申しければ、<sup>1</sup>さりなむとて、召されて参りにけり。このよしを仰せらるるに、かしこまりて宣旨せんじを承りて、心の中に思ひけるは、昼だにも、小さき鳥なれば得がたきを、五月の空、闇深く、雨さへ降りて、いふばかりなし。われすでに、弓箭きゅうせんの冥加みやが尽きにけりと思ひて、八幡大菩薩を念じ奉りて、声を尋ねて矢を放つ。応こたふるやうに覚えければ、寄りて見るに、あやまたずあたりにけり。天気よりはじめて、人々、感嘆いふばかりなし。後徳大寺の左大臣、その時中納言にて、禄ろくを掛けられけるに、かくなむ、

ほととぎす雲居に名をもあぐるかな

頼政、とりもあへず、

弓張り月のいるにまかせて

と付けたりける、<sup>2</sup>いみじかりけり。まかり出づるのちに、

昔養由雲外射雁 今頼政雨中得鶺鴒

とぞ感ぜられける。

頼政、曇目ひきめのほかに、征矢そやをとり具して、持ちたりけるを、のちに人の問ひければ、「もし不覚かきたらば、申し行ひたりける人を射むがためなり」とぞ答へける。

〔出典〕  
○十訓抄

(注) ○鵠＝鳥の名。とらつぐみの異名。凶鳥と考えられた。

○冥加＝神仏が人に与える恩恵。神仏の助け。

○天気＝天皇のご機嫌。

○暮目＝やじりの一種。とぶときに鳴りひびく。

○征矢＝戦陣で用いる矢。

問一 傍線部1「さりなむ」・2「いみじかりけり」を現代語訳せよ。

2	1

問二 後徳大寺の左大臣の「ほととぎす雲居に名をもあぐるかな」はどういうことを言っているのか、具体的に説明せよ。

--

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。(設問の都合で、送り仮名を省略したところがある。)

務光者、夏時人也。耳長七寸、好琴、服蒲韭根。

殷湯将伐桀、因光而謀。光曰、「非吾事也。」湯曰、

「孰可。」曰、「吾不知也。」湯曰、「伊尹何如。」曰、「強力

忍詬。吾不知其他。」

湯既克桀、以天下讓於光、曰、「智者謀之、武者遂

之、仁者居之、古之道也。吾子胡不遂之。請相吾

子。」光辞曰、「廢上非義也、殺人非仁也。人犯其難、

我享其利、非廉也。吾聞、「非義不受其祿、無道之

問二 傍線部①「服」と同じ意味の「服」を含む熟語を、次のイ～ホの中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 衣服    ロ 服用    ハ 屈服    ニ 服役    ホ 征服

問三 傍線部②「吾不<sub>レ</sub>知<sub>二</sub>其他<sub>一</sub>」とはどういうことか。簡潔に説明せよ。

問四 傍線部③「請相<sub>二</sub>吾子<sub>一</sub>」を平易な現代語に訳せ。